派遣現職教員として参加して

浅　香　信　之
（かほく市立宇ノ気小学校教諭）

現職派遣教員として参加することには 2 つの役割があります。1 つはもちろん派遣国の教育に対して協力することであり、そしてもう 1 つは帰国後に現職教員として日本に還元することです。特に国際理解学習の面で協力する必要があると思います。

しかし国際理解学習では、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどの英語圏に目が向きやすく、途上国は扱われづらい現状があります。多くの先生方にとっては途上国へのネットワークもなく、また英語以外の言語なども障害になっているからだと思います。

そのような現状に対して、ホンジュラスに関する情報をホームページの形でまとめ、子ども達にふれさせる試みを行っています。現地で取った写真を載せたり、地図を載せて実際に歩いているような感覚を味わってもらうなど工夫が盛り込まれています。また、ビデオを給食のときに流すなどして呼びかける努力もしています。

このような試みを行いながら感じたのですが、これから国際理解学習をより推進していくためには次のようなことが必要だと思います。まず 1 つ目は、派遣される前に同僚に相談するなどして、現地と自分の学校を結んで実践を行うこと。2 つ目は、1 国だけでなく他の派遣教員ともネットワークを広げ、多くの国々を結んでいくこと。最後に派遣教員は現地で様々な資料を収集し、帰国後に生かしてほしい。ただ帰国後は忙しくなるので、現地で教材としてまとめ上げることも必要だと思います。